

第 42 回番組審議会議事録

1. 開催年月日 平成 25 年 8 月 29 日(木) 午前 10 : 30～11 : 35
2. 開催場所 箕面市船場東 2-5-47 COM3 号館 5 階 COM 倶楽部会議室
3. 委員の出席 委員総数 8 名
- 出席委員 5 名
- 出席委員の氏名 稲垣千秋、高谷和彦、桑田政美、中村 保、
中 宏、
- 以上 5 名
- 放送事業者側出席氏名 藤井 栄治 (取締役統括部長)
大平麻由美 (編成課長)
永田 純子 (編成課員)
4. 議 題 1) 番組 タッキースペシャル「箕面まつりだ！わっしょい@パレード」
2) 審議
3) その他番組に対する意見
5. 議事の概要 事務局挨拶の後、稲垣委員長が議長となり審議となる。

6. 審議内容

1) 番組

(1) 事務局より番組説明

おはようございます。今回は、7月末に行われました「箕面まつり」でのパレードの中継のようすをお聴きいただきました。スタジオとパレードスタート地点、ゴール地点との3時間の三元中継のようすを、約30分に編集し、お聴きいただきました。よろしくお願いいたします。

(2) 審議

委員長：ただいま、事務局から説明がありました「箕面まつり」の中継について、各委員さんのご意見いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

委員：非常にコメントしにくい番組でして、箕面まつりですので、その評価の仕方というか、どういう具合にコメントをしていいか分からなかったんですが…。出演者のことで、何人かに聞いたんですけど、好き嫌いがものすごくハッキリ分かりますね。通して聴いて、倉田市長のコメントがすごくきちっとしていらっしゃって、女性の司会者と市長がメインパーソナリティで、そこに、タレントとしてゲストに入ったようなイメージでずっと進行していて、違和感を持ったのは、お祭りだから、いつもよりもテンション高くて、市長に対してもときどきタメ口が出るんですね。ああいうのはすごく僕は気になるタイプで、特に年配のかたなんかの評価が気になる気がいたしました。内容的には、流れ的には、それぞれスタートから個々のインタビューも含めて、きっちりやっておられると思います。それと、音楽はやはり難しいですね。BGM的にずっと、音楽を使って踊っておられたり、かすかに聞こえながら、というので、もうちょっと音楽を大きく流したらいいのに、というのがあったりとかね。

趣旨自体については全く言うことがありませんでした。

委員長：どうもありがとうございます。順々にお聞きしたいと思います。

委員：パレードのゴール地点を沿道の人により見ていただきたい、耳からも臨場感をもってもらおうという趣旨でタッキーさんがずっとやられていること。最初は現場だけでしかやっていなくて、ラジオに乗せることをついに実現されて、沿道になかなか行けない、特に東地区の人などには臨場感があって、ラジオからでもライブ感が分かって面白いなあ、というのと、また秋に入る前に再放送したらいいのになあ、と。編集版で良いと思うので。ということをおもいました。タッキーの今までのいろんな放送聴いている中で言うと、ライブの感じが出る放送のつくりというのは、今後の放送の仕方をね、特に市民の団体の紹介とかするのには、パレードだから音楽があって周りの雰囲気もマイクに入ってくるから特にそうなんですけど、躍動したラジオの感じはすごく受けたので。そういうのをつくりとして市民の喜んでもらえる番組作りに生かしたら結構良い番組ができるのかなあ、とおもいました。今おっしゃられた出演者の件は、長年付き合っているので良く知っているのも、最近はその味と認めているところもありまして、さりとてやはり「パーソナリティ」というところは、先生の仰っていることもよく分かるのでちょっと気にはなります。そこは大事だと思ったほうが良いのかな、と。市民が聴いている番組ですから。

委員：「世界陸上」の織田裕二みたい。とても好きな人と、もういいやという人と。

委員：ひとつのタッキーの新たな番組のセンスになるようなものもあるのかな、という気がして聴かせていただきました。

委員：やはり、現場からの中継という難しさというのは、今回の番組を聞かせていただいた中でもしんどかったですね。臨場感が伝わってくるころはあったんですよ、確かにね。あと、沿道の声拾っていただけたらな、と思ったんですけど。沿道で見ている人に「今年のパレードいかがでし

たか?」「毎年お越しですか?」「なにか感じたことはありましたか?」とか、コメントとしてこの中に入っていたら。「たくさんの方が沿道におられます」と言われても、聴いている人間はどれだけの人が本当に来ているか見えてないわけですよ。声をちょこちょこでも拾ってもらえれば「たいへん賑やかですね。毎年こんな感じなんですか」というかたもいたかも分からないし、そのあたり、もうひとつ、このPRに使えたのではないかな、と思ったのですがいかがでしょうか。要約すると、そういった現場の雰囲気もう少し欲しかったかな、という思いをしました。

委員：全体的にやはりリアリティに欠けると思うんです。臨場感、見てる人の意見がない、というのは大きなダメージ。だから、中継していても、その中継の画が伝わってこない、というのがあってと思います。だから、画が見えるような、箕面まつりの味みたいなところが出せれば、NHKに勝つと思います。あとは、出演者の件も、まあ付き合いも長いですからあまり言いませんが…それもひとつの箕面らしさかな、というところですかね。

委員長：ありがとうございます。確かに各委員さんがおっしゃったように、私も、ラジオを聴きながらパレードを見るというのは、ものすごく良いなあというのを初めて感じました。ラジオには、こんなに、場面によって、聴き方によって、利用の仕方によって効果が違うというのを初めて感じたんです。ラジオの良さを改めて感じた。パレードの出発地点とゴール地点とで中継して、スタジオでも放送して、それを3つ連携しながら上手に全体を表していただいた、というのはものすごく良かったなあと思います。ただ、見物のかたのインタビューがあったほうが良いなあ、というのは確かにあったかも分かりません。そういうことで、ゴール地点での3人の話、市長の解説もあって、あれもものすごく良かったかな、プラス効果が出たかな、という思いがしています。だから、祭り全体を盛りあげるのに上手に行ったかなあと。「祭り！中継！生で」というのをもっと打ち出したら、もっとみなさんがラジオを聴きながらそういったことを楽しめる効果が出るかな、と。それをきっかけに、ラジオを聴きながら楽しんでいただけるかな、という気もしました。

委員長：ほかのイベントに対しての中継のあり方とか、ご意見ありましたら参考におっしゃっていただいたら。

委員：2つあるんですけど、1つはリアリティがないんですよ。僕は、バラエティとってしまっただけですよ。高校野球なんかでも、見ながらラジオを聞いて、というのがないじゃないですか。あれが「実況」なんですよ。もう1つは、せっかくライブで、知っている人がいっぱい出ているんですよ。生放送をやるというのも、例えばコミセンだとか、ああいうところに一斉に通知して、チラシ撒くのも良いんですけど、聞いてね、という…もしくは、強制的にああいうところでも流してもらおう。なんか、市長も出て、知っている人も出て、ただ見に行けない、という人いっぱいいると思う。そういう施設、箕面市のいろいろな施設なんかで、ときどき市役所でも流したりしているじゃないですか。いろいろな施設に働きかけて、ライブの3時間かけっぱなしにしてください、と。そういうかたちでもファンづくりをしていかないと、もったいないな、と。仕掛けないと。こっちから言っていないと。やってくれているところももちろんあるにしても、どんどんどん、「ライブでやりますから、かけといてください！」とお店だとか施設だとか、ぜひやってほしいな、と。箕面まつりじゃなくても、こういう面白いライブをやるときに、ぜひ。

委員：この駅前の3人での会話は当然現地でも流れていますよね？

事務局：はい。当初、現地を盛り上げるために始まったことです。それを、「せっかくやってるんだったら、中継しよう、ラジオにも流そう」ということから始まったので。目の前で演技をしていらっしゃるの、そこに口を挟んで邪魔をしてもいけない、だけど、そうだとラジオだと伝わらない部分もあったり、そこで、どこまでラジオ用に考えるかというところで悩ましい状況でもあります。なるべく、お着物を着ていらっしゃるかたが出られたらその色とか、着方とか、目で見えたことを口でも説明して伝えていこう、と言ってるんですが、そこでまた演技が始まると、中断しないと演技を壊してしまうことになるので、そのへんの駆け引きがいつも悩んでいるところです。

委員：演技が始まったら、その音をきっちりと拾うということはできていないよね？

事務局：私たちも、「音が足りない」というのは感じています。マイクを1本今年増やせたのがまず大きな進歩かな、と。でもまだ足りなかった。今年がいちばん、あれでも音が拾えていた。向こうから近づいている音が拾いにくい。向こうの方にマイクがないから。目の前にしかなくて…課題です。

委員長：パレードが来たときに、順番に紹介してくださいませよね。紹介して、演技が始まる。で、3人がしゃべる。そこらのタイミングとやり方で、表現の仕方とか、強調の仕方、臨場感があって、現場の雰囲気伝わる、ということがありますよね。順番に技術が上がってきて、雰囲気が上がってきている中で、皆さんの意見をまとめると、そういったところがもうちょっと欲しいな、とおっしゃっている。次回のときに、なんとかそれをプラス・アルファできるように具体的に、マイクを増やすとか、インタビューを何とかするとか、そういったことを考えていただけますか。

事務局：はい。

委員長：ほかに何かありましたら、何でも結構です、その他の番組の意見を頂きたいと思います。

委員：9月1日の防災の日は、タッキー何か考えている？

事務局：防災週間を通して、地区防災委員のかたに毎朝出させていただく、ということ企画しています。

委員：それ以外に防災で取り組みしていることはありますか。

委員：タッキー816応援団で防災ドラマを作ろうと…5分間のドラマ。できれば、実際つくってみて、良ければオンエアしていただいて、それをい

ろんなところに、中学校、高校でも良いし、地区の有志でも良いし。

委員長：そうですか。この審議会でも以前に、防災ドラマを作ったらどうかという意見があった中で、もう現実的に、進めていただいている。どうもありがとうございます。

委員：今、防災の話がありましたが、タッキーが防災の日に、仕掛けを…街角に出て、ジャンパー着て、インタビューして。「今日は何の日？」という問いかけをして、「防災でどんな関心がありますか」というような企画をやっていただくということはできませんか。タッキーとしてどういう取り組みができるのか。自分たちから仕掛けて、防災について「防災ならタッキーやで」というくらい仕掛けをしていただきたい。「防災に入口あって出口なし」というのは、石川県の金沢市の市長さんの名言。1回手を染めたら、どこまでいっても防災って出口がない。だからその「出口の見えない防災」について…防災ならタッキーに聞け、役所なんかあてにならない、しょっちゅう変わるんだから、でもタッキーは変わらない。

委員長：「防災のことはうちに聞け！」というのは良いかも分かりませんね。

委員長：いま「防災」という話が出た中で、タッキーもぼちぼち、そういった目玉があっても良いかも分かりませんね。防災にかぎらず「〇〇はタッキーに聞け」という感じで、つけっぱなしで聞いていると、箕面のことはたいがい何でも分かる。NHKは広く浅くですから。タッキーの場合は、もちろん箕面のことを集中的にやっているのだから当たり前の話なんですけど、つけっぱなしにしていると、なんやかんやで知らん間にそういった情報が聞けて、確かにためになるな、いろんなことがわかるな、と。「〇〇と〇〇と〇〇はうちに分からないことを聞いてくれたら分かるし、それをポイント的に放送しているよ」という感じの目玉もぼちぼちあっても良いかな、という気もするんですけど。

事務局：「ぼちぼち」というか、「箕面のことならタッキー」ということで放送してきていまして（一同笑い）…もっと強調しないといけないですね。

委員長：ご審議をいただきまして、本日はありがとうございました。それでは、これにて閉会といたします。どうもありがとうございました。

一 同：ありがとうございました。

7. 審議機関の答申または改善意見に対して措置および年月日

なし

8. 審議機関の答申または意見の概要を公表した場所における公表内容、方法

自社放送

事務所への備置

ホームページ (<http://fm.minoh.net/>)

上記事項を明確にするため、この議事録を作成する。

平成 25 年 8 月 29 日

箕面FMまちそだて株式会社

番組審議会